

令和5年度阿武町立福賀小学校校内研修

自分の思いや考えを進んで表現できる児童の育成（3年次）
～極小規模校だからこそできる授業の工夫を通して～

1 本年度の研究について

本年度は、複式学級で授業を行う際の指導方法の確立に主眼を置く。「わたり」や「ずらし」だけでなく全校合同授業などで効果的だった手立てを使って、普段の複式学級でも生かすことができる指導方法の確立ができれば、指導方法の選択肢が増え、様々な場面で適切な指導や支援が行えるものと考えている。

本年度の研究の具体的な進め方を以下に示す。

（1）研究方法

①複式学級を対象とした授業

今までの全校合同授業で効果的だった指導方法を生かした授業の工夫を行う。

②阿武町小中3校共通の取組

阿武町小中3校共通で、育てたい心や力として「きづく」「きめる」「かかわる」「やりぬく」の「4つの心や力」を掲げて授業改善に取り組んでいる。本年度も、この「4つの心や力」を意識した授業構成を行い、子どもたちが主体的に学習に参加できるように努めたい。

（2）研究の視点

①全員参加できる学習活動

異学年交流や同学年での話し合い活動、一人学びなどの時間など、どのような活動でも、一人ひとりが課題解決に向けて取り組むことができるかどうかを一つの視点とする。

②両学年に学びや達成感等のある学習内容

学年や発達段階に応じた学習内容であるかどうかを二つ目の視点とする。

（3）評価方法

研究方法の②に示した「4つの心や力」を意識した手立てが、研究の視点①②にもつながるものと考えている。そこで、「授業者は、授業で講じる手立てを指導案上に授業の意図として示し、参観者は、その手立てが研究の視点①②に効果を発揮しているかどうかを評価する。」